

長野市観光振興計画【令和4年度年度事業計画進捗状況】及び【令和5年度年度事業計画】

【令和4年度および令和5年度 成果指標】（長野市振興計画概要表 5ページ）

	観光による地域への経済波及額(億円)	一人当たりの観光消費額(円)			市内宿泊客数		※2	観光入込客数(千人)			
		全体	宿泊客	日帰り客	総宿泊客数(千人)	外国人宿泊数(人)		全市	善光寺	戸隠	松代
基準値 ※1	784	11,991	20,280	6,621	1,570	103,599		10,706	6,436	1,482	545
令和4年度成果指数	1,008	12,111	20,483	6,687	1,414	50,762		13,629	10,945	1,176	328
令和4年度実績	1,054	17,467	29,165	7,953	1,409	46,723		13,349	10,208	1,520	485
令和5年度成果指数	645	12,231	20,686	6,753	1,390	77,181		8,632	5,156	1,329	436

※1 基準値は、平成29年度～令和元年度をコロナの影響のない平常年と捉え、この期間の平均値としています。

※2 「市内宿泊客数」及び「観光入込客数」は、令和2年度の実績から令和6年度の中間年で基準値まで戻すこととしています。全市及び善光寺は善光寺御開帳の増加見込み分707万人(前回御開帳参拝客総数)を加えています。

【各地域における実践プロジェクトの事業実施計画】
（長野市振興計画概要表 10ページ）

A: 計画とおりに実施できた
B: 部分的に実施できた
C: 実施できなかった

地区名	趣旨	R4実施内容	担当課	年次目標値	評価	R4達成状況 具体的な成果・残された課題等	R5実施内容	年次目標値
善光寺	善光寺界隈と中心市街地の周遊を促進するため、様々な観光関連事業者と連携し、周遊促進コンテンツを開発するとともに、周遊を促す仕組みを構築する。	①まちあるきの「着地型コンテンツ」開発販売 ・長野市中心街にある、古民家リノベーションのカフェ、裏路地めぐりといった資源を活用し、ガイドや体験等の付加価値つけた収益性のある商品の販売 ・地域人材とのつながりや歴史、伝統、文化などを活かし、若者層ターゲットに訴求できるコンテンツを開発し、SNS等活用し広く発信する →住職出演による動画発信を活用したコンテンツ造成 →「リアル七福神」によるおすすめ店舗発信 →デジタルマップ(Stroly)の効果検証・滞在時間、場所等のデータ分析	観光振興課 ビューロー 各観光協会	-	B	①まちあるきの「着地型コンテンツ」開発販売 ・収益性のある商品販売には至らなかったが、旅行事業者、古民家リノベーション等を行う民間主体等と協議を重ね、裏路地で活用できる資源の洗い出しを実施 ・コンテンツ宣伝用のプロモーション動画を製作 ・ゲーム性のあるまち歩きイベントを検討、次年度秋開催を目指して調整中 →善光寺宿坊住職11人のメッセージ動画を制作(NCVB事業) →「リアル七福神」店舗紹介パンフレットを更新・配布した →デジタルマップによる人流データの取得を行った →地域人材とのつながりや体験コンテンツを軸とした旅行代理店主体のツアー商品造成に協力、モニターツアーを開催した →まちあるきPRとしてのゲーム性のあるまち歩きのコンテンツ化を図りつつ、リノベーション等店舗の「消費」につながる仕組みを強化していく	①まちあるきの「着地型コンテンツ」開発販売 ・ゲーム性のあるまち歩きイベントの開催 →秋を目途に市街地のまち歩きイベントを開催するため、現地調査を実施する。また、定期開催についてを検討する →イベントをPRの機会と位置づけ、並行して裏路地店舗等での「消費」つながるキャンペーンやツアー開発に取り組み、商品開発・販売のための事業スキームを構築する。 ・裏路地散策コンテンツのデジタルコミュニケーション活用 →ガイドワークや割引チケット等の情報を集約、デジタルマップやSNSでの発信を強化し、キャンペーン等によって効果検証・顧客分析を行う →コンテンツ宣伝用のプロモーション動画を活用して、SNSなどで情報発信を行う ・市街地滞在型ツアーの周知・販売 →旅行事業者と連携し、ラグジュアリータクシー等を利用した少人数による、県立美術館や宿坊と連動した高付加価値ツアーの周知・販売	-
戸隠・飯綱高原	戸隠を持続的で長期滞在に適した観光地にするため、長期滞在を可能にする仕組み(分散型宿泊、連泊プラン、ワーケーション等)を構築するとともに、観光資源を活かしたコンテンツ開発でファンを増やし、リピーター確保につなげる。 飯綱高原のアウトドアコンテンツ開発を中心に進めるとともに、戸隠や他地域への周遊を促進する。	①地域資源活用の滞在型コンテンツ造成 ・自然、景観、文化、歴史を長期滞在観光スタイルに繋げる →「早朝お掃除ツアー」「戸隠古道ガイド」などのコンテンツの造成 →「バードウォッチング」「かやふき屋根体験」などで長期滞在を促す ②Eバイクの戸隠ー飯綱相互乗り捨てを活用した宿泊客獲得 ・戸隠と飯綱高原を連携したEバイクコースを構築し、それぞれの地域資源を活かした長期滞在の仕組みの構築 ・宿泊施設と連携し高付加価値化した宿泊プランを売り出す ・戸隠キャンプ場でワーケーションとEバイクのサイクリングコース構築 ・飯綱高原で「森の駅Daizahoushi」をSNS等で発信。地場産野菜の飲食プラン、里山の暮らし体験(農業体験)等の観光コンテンツの検討	観光振興課 ビューロー 各観光協会	-	B	①地域資源活用の滞在型コンテンツ造成 ・飯綱高原冬のアウトドア体験宿泊プランを造成、販売 ・飯綱高原の冬のアクティビティ体験をSNS(Instagram,facebook)で情報発信。インフルエンサーによるPRを実施 ・コンテンツ宣伝用の地域共有プロモーション動画を製作 →1泊2日の「戸隠古道大ウォーク」を実施(戸隠観光協会) →官民協同による、かやふき屋根に用いる茅刈り体験を実施(戸隠観光協会) →各種体験を活かし、宿泊施設連携も模索しながら長期滞在プランを開発・販売していく ②Eバイクの戸隠ー飯綱相互乗り捨てを活用した宿泊客獲得 ・乗り捨ての仕組み設計、サービス開始 ・Eバイクによる周遊コースを3コース設計、コース上に看板を設置 →広域周遊Eバイクの大きなPRと、宿泊プランとの連動やガイドによる付加価値化を図る	①地域資源活用の滞在型コンテンツ造成 ・長期滞在プランの開発・販売 →戸隠、飯綱の宿泊施設とともに、施設間の連携や、地元暮らしの体験コンテンツ(バードウォッチング、茅刈り体験など)との連携を通じ、長期滞在プランとしての開発・販売を行う ②Eバイクを軸とした広域周遊・消費拡大 ・Eバイク連動型の宿泊プランの開発・販売 ・戸隠・飯綱間の広域エリアを対象として、ガイドによる体験コンテンツ(Eバイクツアーやその関連で提供できるアウトドア体験など)の開発・販売	-
松代	松代荘などに宿泊する観光客がまちを周遊し、滞在時間を延ばすこと(買い物や食事)で、地域における観光消費につなげる。	①周遊Eバイクツアーの宿泊パッケージプラン販売 ・自然や絶景、地元農家と触れ合う収穫体験、名物ガイドによるガイドなど、地域の人と触れ合うEバイクツアーと宿泊施設と連携した販売を行う。 →グルメ、歴史などテーマごとに新たな商品造成も検討。 ②文化財を活用した飲食等コンテンツ開発 ・伝統文化体験の提供・販売方法を整理しながら、収穫体験や食・温泉、まち歩き等松代のコンテンツを組み合わせ、魅力的な滞在コンテンツを造成する。	観光振興課 ビューロー 各観光協会	-	A	①周遊Eバイクツアーの宿泊パッケージプラン販売 ・ゲストハウスと連携し「里山めぐり」「りんご狩り・陶芸体験」「川中島歴史」の3つのEバイクツアーを開発・販売 ・宿泊施設と連携して、ガイド付きEバイク宿泊プランを販売 →一周知期間が短く、予約獲得できず。実施可能な状況にはあるため今後ビューローや宿泊施設等と連携しプロモーションを強化していく ②文化財を活用した飲食等コンテンツ開発 ・文化財活用の可能性・許可を確認、真田邸での食事付ガイドツアーを開発・販売 ・飲食コンテンツである松代クラフトビールの販促ツールを製作 →コンテンツ開発の手ごたえを感じており、文化財と飲食の連動・プロモーションを強化し、消費拡大を進める	①Eバイクツアーと連動した宿泊プランの開発・販売 ・松代荘とEバイクツアーの連動宿泊パッケージを造成し、宣伝媒体や旅行代理店の活用等でプロモーションを実施して販売につなげていく ②文化財を活用した飲食等コンテンツの開発・販売 ・R4の成果をもとに、より高頻度・高単価な商品コンテンツの開発・販売を行う(飲食店連携、定期イベント化の検討、真田邸以外の文化財活用を検討など)	-
中山間	中山間地域にある様々な地域資源を磨き上げ、それらを縁で結び、観光客が中山間地域を周遊する仕組みを作る。	①市が現地リサーチしてプロジェクトを立案 ・自然環境や里山暮らしなどの地域資源が高単価な宿泊コンテンツを生み出す可能性があると思えるもの、現時点ではこれを販売する事業者が不在の状態にある。今年度は長野市が宿泊や体験事業者をピックアップし、関係主体とともに、実践プロジェクトを立ち上げる。 →飯綱地区から手井地区周辺を巡る里山サイクリングコース造成 →鬼無里地区におけるEバイク活用サイクリングと体験等のコンテンツ検討 →収穫体験等と宿泊を組み合わせたコンテンツの検討	観光振興課 ビューロー 各観光協会	-	B	①市が現地リサーチしてプロジェクトを立案 ・鬼無里、信州新町、中条でそれぞれ宿泊等の事業者をピックアップ、フットバスや屋根船など宿泊の高単価化の可能性を確認し、次年度よりその開発に取り組み。 →鬼無里地区で収穫体験等と宿泊を組み合わせたプロジェクトを実施、同様の取り組みを広げていく ・本市で初となるワイナリーの建設が信更地区で予定されており、現地を視察 →事業者と連携した(アドウの収穫体験など)ワイナリズムの可能性について検討した	①中山間地の高単価宿泊プランの開発・販売 ・先行して鬼無里地区で、フットバスやEバイク、農業体験等による高単価の宿泊プランの開発・販売を行う →他の地区でも今後の高単価宿泊プランの可能性を模索する。 →市有施設(さざり荘、鬼無里の湯、やきもち家など宿泊施設)と連携を図り、ツアーや宿泊プランを開発を行いPRを行っていく。 ・ワイナリズムについての先進地事例の調査・研究を進める	-

参考資料

政策	施策	実施事業	追加	R4実施内容	対象地域		担当課	年次目標値	R4年度の達成状況		新規	R5実施内容	年次目標値
					東信	北信			評価	具体的な成果・残された課題等			
政策1 地域資源を最大限活かした誘客	1-1地域資源を活用した魅力的で多様なコンテンツの創出と流通促進	(1) 地域資源を活かしたコンテンツ開発の支援	追加	⑥アウトドアスポーツ、文化芸術などを切り口としたコンテンツ開発		○	観光振興課 NCVB	-	A	・信州プレイブウオーリアーズとの連携による誘客と発信 土日に2日間続けて試合が開催されるBリーグの特徴を活かし、アウェイチームのブースターに宿泊と周遊促進を図るため、夕食クーポン付きチケットの販売と、SNSや専用ランディングページ、選手が巡る観光動画により発信を行った。 【チケット販売数】 令和4年11月26日秋田戦 23名、令和5年1月21日千葉戦 39名、令和5年2月11日vs渋谷戦 3名 計65名 ※3月18日の琉球戦でも販売予定 【動画制作数】 善光寺・戸隠・松代地区各1本 計3本	・信州プレイブウオーリアーズとの連携による誘客と発信の継続 令和4年度に初めて行った取り組みを令和5年度も継続しながら、ランディングページの充実化を図り、情報発信の強化を行う。 また、試合の前夜でOB選手と観光スポットを巡るツアーの達成について、検討を行う。	1コンテンツ以上開発	
			追加	⑦広域連携でのコンテンツ開発		○	観光振興課 NCVB 各観光協会	-	A	信越高原エリアにおける観光コンテンツをEバイクでつなぎ合わせた1泊2日のサイクリングツアーを造成し、販売した。 実績 参加人数5名	・Eバイクやアクティビティなどのコンテンツをつなぎ合わせたツアーを造成し、ファミトリップやモニターツアーの実施、一般販売に向けた検討を行う。	-	
				若者向け(2世代)やファミリー向けのコンテンツの開発		○	観光振興課 NCVB 各観光協会			新規	ながので楽しむ「Eバイク・アクティビティ旅」推進事業 SDGsの視点や密を避ける新たな観光スタイルとして注目されている「Eバイクで巡る旅」や「アクティビティ体験コンテンツ」など、ウィズコロナに対応したコンテンツの造成・発信を行うことで、若者やインバウンドを中心に長野市の魅力を伝え、誘客促進と地域経済の活性化を図る。 ①Eバイクの拠点整備、受入環境整備 ②体験コンテンツ商品化・発信・販売	-	
	(2) 観光コンテンツの提供体制の構築と広域連携	①ビューロー、各観光協会の連携によるコンテンツ販売体制強化	・各観光協会間の情報共有促進 各観光協会での誘客事業を共有し、連携してプロモーションや販売体制を構築する。	○	NOVB 各観光協会	-	B	【松代地区】「御霊塚公園」などのコンテンツをながの観光コンベンションビューローのWEBサイトで告知したり、広告発信を行った。りした。	WEBサイトやSNSでの情報発信を協会間で相互に行う。	-			
		②観光人材の育成、プロガイドの養成	・ニーズに対応した観光人材の育成、プロガイドの養成 戸隠での山岳ガイドやスノーシューガイドの養成を行う	○	観光振興課 NCVB 各観光協会	-	A	・戸隠観光協会及び戸隠登山ガイド組合において、戸隠地質化石博物館の田辺学芸員を講師に迎え研修会を行った。また、ガイドマニュアルを作成し、既存のガイドのほか、新しいガイド参加者の質の底上げを図った。 ・スノーシューガイドの依頼が増えていることから、令和5年1月11日にスノーシューのガイド研修を行った。 ・インバウンド旅行者に対応するため英語対応通訳ガイドの養成講座を3回実施した。	四季ごとのガイドツアーの計画やガイドが要望する内容に関する研修会をガイド委員会で決めながら行う。また、引き続きインバウンド対応としての通訳ガイド及びEバイクのサイクルガイドの養成を行っている。 五社連りの需要に対応するため戸隠観光情報センターに常駐ガイドの配置について検討する。 あまみトレイルなどアドベンチャーツーリズムに対応できるガイド体制を構築する。	-			
		③広域連携による効果的な情報発信、プロモーション	・北陸新幹線延伸の沿線各都市及び県内自治体と連携した情報発信、プロモーションの実施	○	観光振興課 NCVB	-	A	・金沢市と連携しインフルエンサーであるソニーを招き、youtubeにて新幹線を使った長野・金沢間のモデルコース及び両都市の魅力を発信した。 再生回数：約26,000回 ・信越高原エリアでは妙高市・飯綱町・信濃町と連携し、Eバイクを活用したコースの紹介やエリア全体の魅力発信のページの制作、長野駅での動画放映を行った。 ・北陸新幹線沿線都市13市と連携し、インフルエンサーを活用して雑誌「リンネル」に記事掲載を行ったほか、北陸新幹線延伸を見据えたキャンペーンイベントへの参加を行った。	・金沢市と連携し、インフルエンサーを活用したメディア発信を引き続き行う。 ・信越高原エリアでは、Eバイクやアクティビティなどのコンテンツを、インバウンド向けに海外雑誌などのメディア上で発信する。 ・北陸新幹線延伸に伴い、沿線上の各都市と連携して、相互のイベント等への出展及び連携した情報発信を行う。	-			
	1-2地域を守り、未来へつなぐ観光振興	(1) 観光を通じた歴史・文化、自然資源の保全と情報のシェア(価値の伝達と共有)		[再掲] ・文化財を活用した散策コンテンツの開発		○	観光振興課 文化財課 NCVB 各観光協会	-	B	上記に掲載済	上記に掲載済		
				[再掲] ・Eバイクを活用した地域の人を巡るツアーコースバリエーションの検討		○	観光振興課 NCVB 各観光協会	-	A	上記に掲載済	上記に掲載済	1コンテンツ以上開発	
				①まち並みや里山などの景観の保全及び観光コンテンツ化			○	観光振興課 農林畜産観光課 農協	-	A	【鬼無里地区】地区内の団体と協力し、野沢菜収穫体験を組み込んだフットバスイベントを開催。また、E-BIKEを使った鬼女紅葉伝説ゆかりの史跡を巡るガイド付きサイクリングイベントも開催。	【鬼無里地区】引き続き、収穫体験やE-BIKEを活用したイベント実施やコンテンツ開発に取り組む。	
			追加	・大谷地湿原保全・再生事業 ①専門家による調査と管理手法の検討 長野県等と連携し湿原内の地生物・水質等の調査・実験を行い、長期的な保全管理手法を検討する。 ②乾燥化を防ぐための維持管理 これまでの調査報告に基づき、湿原の乾燥化を防止するため、当面の処置としてヨシ刈り・撤出を実施する。			○	環境保全課 文化財課	-	B	・昨年度末に令和3年度報告書が完成し提出された。令和4年度報告書は3月末に提出される予定。なお、長野県等への調査委託は令和元年度から開始しているが、保全管理手法の検討には長期間のデータの蓄積が必要であることから、委託は令和6年度までを予定している。 ・11月に飯綱高原観光協会に委託しヨシ刈りを実施した。	令和4年度に引き続き、長野県等への調査委託を継続し、持続可能な保全管理手法を検討する。 また、委託業務内容に定められている地元向け報告資料作成の一環として撮影している360°カメラの画像について、観光へ活用できるかどうか検討する。	-
			追加	・奥穂花自然植物園の保全と活用 観光資源としての奥穂花自然植物園を利用したコンテンツの開発			○	鬼無里観光協会	-	A	【鬼無里地区】奥穂花深谷の地層やブナ原生林がある奥穂場自然園、今は使われなくなっている峠道などを利用したガイド付きトレッキングを実施	【鬼無里地区】リピーターも多いことから引き続きイベントを実施していく。	-
			②歴史・文化、伝統産業(地場産業)の保全活動の観光コンテンツ化	追加	・市内の伝統芸能保存団体の紹介 長野市内の神楽・獅子舞や甚句、語りなどの伝統芸能保存団体の活動状況等について、市ホームページに掲載する。 ・戸隠地区における茅の保全活動			○	文化芸術課 戸隠観光協会	- -	A B	・令和元年度に各団体の調査に基づき公開した情報を最新のものに更新した。 現在の掲載団体数：160 ・貴重な宿坊群・戸前町の歴史的まちなみが残り、官民協働で歴史を活かしたまちづくりが進む戸隠地区で、茅葺き屋根に用いる茅の刈り取り体験を実施	公開情報に追加、修正を行いつつ、公開を継続する。 引き続き、茅刈り体験を官民協働で実施するとともに、宿泊などと連携したコンテンツ開発につなげていく。

政策		施策	実施事業	追加	R4実施内容	対象地域	担当課	年次目標値	R4年度の達成状況		新規	R5実施内容	年次目標値				
						市外・県外・海外			評価	具体的な成果・残された課題等							
政策2 魅力を活かしたインバウンドの推進	2-2ターゲットに届く効果的な情報発信	(2)	他市町村と連携した情報発信		・金沢市、近隣市町村と連携した情報発信	市が中心となり、関係各所と連携しながら実施	観光振興課 NCVB	-	A	・オーストラリアをターゲットに、現地からの旅行会社招請(BtoB)、メディア・インフルエンサー招請(BtoC)によるFAMトリップを2回ずつ行い、旅行商品達成への働きかけ、FIT(個人旅行者)へのプロモーションを行った。 ・信越高原エリアでは妙高市・飯綱町・信濃町と連携し、Eバイクを活用したコースの紹介やエリア全体の魅力発信のページの制作、長野駅での動画放映を行った。		・オーストラリアをターゲットに、現地からの旅行会社招請(BtoB)、メディア・インフルエンサー招請(BtoC)によるFAMトリップを行う。 ・信越高原エリアでは、Eバイクやアクティビティなどのコンテンツを、インバウンド向けに海外雑誌などのメディア上で発信する。	-				
							観光振興課	-			新規	白馬村・松本市と「インバウンド」を柱とする長期滞在型観光振興に関する連携協定を締結し、戦略的に互いのリソースやコンテンツを共有する会を行う。新たな魅力や上質で洗練された滞在型空間を創出し、外国人旅行者のニーズを着実に捉えた長期滞在型観光を振興する。	-				
				追加	・信越自然館10市町村の連携による、サイクルツーリズム、台湾、タイ等へのサイクルツーリズムの情報発信		観光振興課 NCVB	-	A	・サイクルツーリズムでは、台湾、タイをターゲットに、広域10市町村で連携して、在日旅行会社の招請と商談会の実施し、旅行商品販売に結び付けた。	・サイクルツーリズムでは、台湾、タイをターゲットに、広域10市町村で連携して、旅行商談会と旅行商品のOTA掲載を行う。	-					
政策3 オリンピック・ラグビー等最大限を活かしたコンベンションの誘致	3-1コンベンション誘致の強化	(1)	コンベンション誘致やエクスカーションの強化		・助成事業の強化 これまで実施していた開催助成金を増額し、新たなコンベンションを誘致する。	ながの観光コンベンションビューローで実施	NCVB	-	A	【NCVB】令和4年度は見込みであるが取扱件数92件(令和元年度比75%)、取扱人数65,000名(令和元年度比59%)という状況であり新型コロナウイルスの影響は受けたが回復傾向にある。また、他都市との比較でも回復は望ましい。 ・学会は取扱件数8件(令和元年度比100%)、取扱人数3,817名(令和元年度比110%)であった。		【NCVB】・新型コロナウイルスの収束に伴い、コンベンション開催件数の増加が見込まれるため、北陸新幹線敦賀延伸を見据え、関西圏も含めた積極的な誘致活動を行う。 ・本市におけるスポーツ大会の支援情報が主催者に共有されてきており、スポーツ大会と合宿が取扱件数、取扱人数共に堅調に伸びつつあるため、スポーツのキーマンシップの開拓を行いながら誘致を進めていく。 ・大学等高等教育機関との連携を強化し、学会とコンベンションの誘致促進を図る。	-				
					・大学等と連携した学会誘致		スポーツ課	-	A	令和4年度は長野マラソンでオリンピックスタジアムを活用し、また、全日本大学軟式野球選抜大会がオリンピックスタジアムで開催されるなど、オリンピック施設を活用した活動が行えた。	新規	・イベントを継続しながら、オリンピック施設を有効に活用し、スポーツを楽しめる環境づくりを推進するとともにスポーツで地域を活性化させる。	-				
							NCVB	-				コンベンションの誘致強化の一環として、信州大学と長野市が相互の発展に資するため、資源及び研究成果等の交流を促進し、文化、教育、学術等の分野で連携し、協力をするための包括連携協定の覚書を交わす予定。当法人が信州大学と締結する協定により、相互の連携を深めることで学術会議などコンベンションの開催を促すとともに、同様の連携を県内の他の大学にも広げていく。	-				
		(2)	コンベンション参加者への情報発信		・参加者への情報発信の強化 改めて家族等で訪れてもらえるよう、本市の魅力や観光情報を発信するとともに、周遊促進策を検討し、実施する。		NCVB	-	A	参加者支援としてガイドマップ「おいでなごの」や「ながのグルメガイド」を提供している。 毎年お客様目標で刷新しており、本年はコンベンション会場として利用頻度が高いホト文化ホールから善光寺まで一目で確認できる地図に修正した。(コンベンション参加者からのアンケートでも好評をいただいている) ・各グルメガイドには戸隠、松代等の情報も掲載しており長野市全体の観光PRも行っている。		・高等教育機関との連携を図り、地域資源を活用したエクスカーションを更に提案していく。 ・「おいでなごの」「ながのグルメガイド」は令和5年度も内容の刷新を行いお客様が活用しやすいしていく。	-				
				3-2地域資源を活かしたフィルム・コミッションの強化	(1)		フィルム・コミッションの強化とロケツーリズムの推進		・ロケ地等の情報発信強化 これまで行われたロケ等の情報をホームページやSNSを活用して情報発信する。	ながの観光コンベンションビューローで実施	NCVB	-	A	・令和4年2月下旬～4月25日までの長期にわたり幾度も撮影を実施し4月30日に放映された。テレビ東京「出だ！アド街ック天国 信州善光寺」の影響が大きく放映以降の参拝者数に大きく反映された。 ・「長門有希ちゃんの消失」はアニメーション協会による「訪れてみたいアニメの聖地88」に5年連続選出された。大きなキャンペーンなどは行っていないが一定数のファンが継続的に聖地巡礼を行っている。また「ツルネ」つながりの一「」放映により、少数ながらも同去神社などのロケ参考地への巡礼者訪問の情報を現地から得ている。 ・「ツルネ」製作の京都アニメーションとはプロモーションを兼ねた素材借用による巡礼マップなどの作成については残念ながら交渉決裂してしましたが、SNSでのローケーション紹介は好評であった。		・令和4年度撮影作品 映画「ゴールデンカムイ」や米国ドラマ「TOKYO VICE season2」が上映/放映されることを受け、広域展開された両作品撮影地のプロモーションへ参画することにより、フィルムツーリズムの機会創出へと発展させられる可能性は高い。(県・JFCとの協働) ・業務内容の整理を行い、「作品プロモーション」作品素材活用によるロケ地宣伝について計画的な展開を図る。 ・ローケーションデータベースの見直しを行い映像制作者への訴求力を高める。	-
政策4 快適で安全・スマートな観光を実現する基盤の構築	4-1 DXの推進による快適な滞在環境の構築	(1)	快適に滞在できる環境整備		・導入に向けた情報共有 各種キャッシュレス環境の整備のための国の補助制度や動向の情報を収集するとともに市内や各観光協会と共有する。	市が庁内関係各課と共有	観光振興課 企画課 商工労働課	-	B	・地域応援キャッシュレス決済還元事業(令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金)新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ市内経済の活性化及び消費喚起のため、キャッシュレス決済を利用して買い物した場合に、決済額に応じてポイントを還元することで、キャッシュレス決済の促進と消費喚起を同時に図った。	R4年度事業終了		-				
							交通政策課	-			新規	地域連携ICカードの導入 平成24年から運用を開始したバス共通ICカードKURURUの更新に伴い、JR東日本のSuicaをベースに開発された地域連携ICカードを令和7年春に導入するためのシステム開発	-				
				追加	・Massの導入、情報発信		観光振興課 NCVB	-	B	東日本旅客鉄道と連携して、観光の利便性向上と広域周遊促進を目的として、長野県、北信越エリアで観光型Mass「旅する北信越」を導入した。移動に便利な交通電子チケットやグルメ、温泉、レンタサイクル等、お得で便利な観光電子チケットを導入した。		「旅する北信越」をサービス提供エリアの拡大に加え、利便性の構築に努める。	-				
		(2)	快適な滞在を提供するためのマーケティングシステムの構築		・デジタルマップ利用者、ながのファンクラブ等の顧客データ分析 滞在時間、場所等のデータを分析し、人気の店やスポットの情報を取得し、今後のプロモーションに活用する。	市とNCVBで連携しながら実施	観光振興課 NCVB	-	B	デジタルマップのヒートマップから見える動向を分析し、主要道路以外的小路へ誘導するためリノベーション店舗やカフェ情報を紹介した。		引き続き顧客データ取得に努め、取得したデータを活用し、趣味趣向にあった情報発信を検討・実施する。	-				
				(1)	災害など緊急時の対応力強化			・情報連絡体制の確認、点検 自然災害等の有事の際に、観光危機管理マニュアルに沿った適切に対応できるよう情報連絡体制を確認、点検するとともに、必要に応じてマニュアルを改訂する。	観光振興課 危機管理防災課	-	B	関係機関、団体と協力体制を構築するため、実際に災害が発生した時と酷似した図上訓練を実施した。 災害時に犯しやすい失敗を確認させ、迅速かつ適切な対応を取るための検討が可能となり、組織としての災害対応能力を高めることができた。		観光危機管理マニュアルに沿って、帰宅困難者の一定期間滞在する場所について、宿泊施設や公共施設と協力体制を構築させる。必要に応じて、マニュアルの改訂を行う。	-		
							4-2災害に強い観光都市基盤の構築	(2)	安全な観光地づくり		・チラシ配布、情報発信への協力 各事業者が状況に応じた適切な対応が取れるよう、各観光協会を通して情報を提供する。	観光振興課 危機管理防災課	-	A	県からの情報や市内の関係部局と連携し、感染状況や予防対策等を各観光協会へ情報を提供した。		観光施設や宿泊施設に対しても、感染症が流行した際の対応についても想定し、速やかに実行できるよう働きかける。
追加	・観光地でのバリアフリー・ユニバーサル化の推進 戸隠でのユニバーサルツーリズムの取り組み		戸隠観光協会	-	A	令和元年度より戸隠観光協会内に「戸隠ユニバーサルデスク」を設置し、年齢、障がいの有無にかかわらず、誰もが安全に楽しめる観光地を目指す。				【戸隠観光協会】引き続き戸隠観光情報センター内の「戸隠ユニバーサルデスク」においてユニバーサルツーリズムに関する情報提供や介助備品など旅行支援を行っている。	-						